

## 編集後記

この特集号の取りまとめと呼応するように、葛飾キャンパスの新棟の工事も順調に進んでいます。一方、葛飾キャンパスで行われた春のオープンキャンパスでは、薬学部の説明に用意した230名の会場に400名超の方が来場されました。本学の教職員以上に、受験生や関連団体からも大きな関心と期待があることを、あらためて実感した次第です。

薬学部の教育、とりわけ薬剤師国家試験資格を供与できる薬学科が6年制に移行し、20年以上が経ちました。本薬学部は、この6年制移行とともに野田キャンパスに移り、新生薬学部としての再スタートを切りました。野田キャンパスにおいては、長期実務実習用の教育施設や研究環境のさらなる充実を図り、今日に至っています。

都内への再移転ということであれば、「本学の神楽坂キャンパスに戻る」という選択肢もあるうかと思いますが、6年制教育で必要な実務実習用の環境、及び、製薬におけるモダリティの多様化に順応した研究環境の整備を考えるとき、「都内の利便性」と「教育研究に必要な敷地面積」を両取りできる葛飾キャンパスは、新たな拠点として薬学部を再加速させるに十分な場所であると言えるように思います。

本薬学部の再加速の大きな原動力は、言うまでもなく、研究力に他なりません。本特集では、これまでに本学の広報等で紹介された研究は程々に、これから飛躍が期待され、次の原動力となる若い世代の教員の研究を中心に紹介させていただきました。結果として、新規の製薬モダリティを含み、低分子化合物、製剤、細胞治療、免疫、核酸医薬品、さらには、育葉や予防・未病への研究を薬学ならではの視点で紹介できたように思います。あらためて、「薬を使う研究」と「薬を創る研究」が二重螺旋となり、本薬学部のDNAを次世代に伝えているように感じました。

薬学の研究は、精度の高い測定機やデータ解析・予測等と相まってこそ成り立ちます。是非、読者の方には、各研究と葛飾キャンパスの工学系学部との連携を連想していただき、本学の工学系に興味がある受験生にも薬学部の息吹を感じていただけると幸いです。

最後に、本特集を企画いただいた編集委員会をはじめとする関係者の方々に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

〔宮崎 智：薬学部〕

## 次号予告

### 特集：カーボンバリュー研究

- カーボンバリュー科学技術の創成
- カーボンニュートラル社会の実現を目指した人工光合成型光触媒の開発
- 酸化チタンを担体としたCO<sub>2</sub>資源化のための電極触媒
- 光触媒上における金属微粒子助触媒の精密制御技術の開発
- 二酸化炭素削減に寄与する次世代蓄電池の材料開発
- 太陽光でCO<sub>2</sub>を分離回収し、資源化する
- 太陽光エネルギーと水を用いたCO<sub>2</sub>の有価物への変換技術

### 編集委員会 編集委員

渡辺 一之	名誉教授
松田 学則	理学部第一部 応用化学科
小谷 佳子	理学部第二部 数学科
西尾太一郎	理学部第二部 物理学科
橋詰 峰雄	工学部 工業化学科
藤沢 匡哉	工学部 情報工学科
原田 陽介	薬学部 生命創薬科学科
早瀬 仁則	創域理工学部 機械航空宇宙工学科
塚本 良道	創域理工学部 社会基盤工学科
増田 信之	先進工学部 電子システム工学科
梅澤 正史	経営学部 ビジネスエコノミクス学科
佐藤 憲一	教養教育研究院 野田キャンパス教養部



共創棟 葛飾キャンパス (画像提供:(株)日建設計)

\*本パースはイメージであり、変更となる可能性があります。

**SCIENCE FORUM** 科学フォーラム 通巻442号  
(創刊1984年7月)

2024年8月発行／第41巻4号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 渡辺 一之 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、本学広報課にお願いします。

TEL: 03-5228-8107, FAX: 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当:亀山 亜土、坂口 奈織美)

e-mail: henshu@admin.tus.ac.jp

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載